

美術

検討の観点 と 内容の特色



本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って、令和7年度中学校教科書の内容解説資料として、配布を許可された資料です。

● 検討の観点と内容の特色

1 教育基本法(第二条)及び学校教育法との関連

検討の観点	内容の特色と具体的なページの例
<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことに配慮されているか。(第一号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の全題材及び特設のページを通して、美術や美術文化に関する知識や教養を幅広く学ぶことができるように構成されている。また、生徒が自ら真理を求めて学びに向かう態度を養うことができるような題材が設定され、その意欲的な学びに応えられるよう、さまざまな美術や美術文化に関する資料を充実させている。 日本や世界の美術、美術文化と触れ合い、豊かな情操と道徳心を養うことができるように、美しく優れた図版を多用し、表現や鑑賞の学習がより具体的に身近なものとなるように配慮されている。 <p>美術1 全般 美術2・3 全般</p>
<p>個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことに配慮されているか。(第二号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らが表現の主題を生成することを学習活動の中心として位置づけ、自分らしさを探ることができるような題材が多く設定されている。 学習の目的や意義がわかりやすく提示されており、考えたことを広げたり深めたりして、自らの創造性を培うことのできる学習方法が提示されている。 各教科書の巻頭には、美術を学ぶ意味を考えるページが設定され、巻末には学習をふり返り、自らの成長を確認できるページが設けられている。特に、美術2・3では、これまで美術科で学んできたことがどのように社会と結びつくかを考え、自ら社会に貢献する態度を養うことができるように配慮されている。 <p>美術1 p.2-5 / p.8-9 / p.10-13 / p.14-17 / p.18-19 / p.20-21 / p.22-25 / p.26-33 / p.34-35 / p.36-39 / p.40-43 / p.44-47 / p.48-51 / p.58-59 / p.71</p> <p>美術2・3 p.2-5 / p.10-13 / p.14-17 / p.18-21 / p.22-25 / p.26-31 / p.34-37 / p.38-41 / p.48-51 / p.52-55 / p.60-63 / p.68-71 / p.72-75 / p.80-81 / p.82-85 / p.86-89 / p.110-111 / p.112-115 / p.120-123 / p.124-127</p>
<p>正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことに配慮されているか。(第三号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力して学び合う協働的な学習方法による題材や資料が設定され、共に学び合うことの大切さを学習できるようになっている。 美術科の学習活動を通じて地域や社会と関わり合い、貢献できる学習展開が可能な題材が設定され、地域や社会の一員としての自覚と公共の精神、積極的に社会と関わろうとする態度を養うことができるように構成されている。 <p>美術1 p.2-5 / p.14-17 / p.22-25 / p.40-43 / p.44-47 / p.48-51 / p.57 / p.58-59 / p.62-63</p> <p>美術2・3 p.38-41 / p.52-55 / p.60-63 / p.64-67 / p.68-71 / p.72-75 / p.76-79 / p.80-81 / p.82-85 / p.86-89 / p.94-95 / p.110-111 / p.112-115 / p.116-117 / p.120-123 / p.124-127</p>
<p>生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことに配慮されているか。(第四号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人や動物の生き生きとした姿を表現して生命を尊ぶ心を養う題材や、草花や風景を観察して自然のよさや美しさに対する感性を育む題材や資料が多く設定されている。 SDGs(Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)に対応する学習では、その趣旨をわかりやすく提示し、自然や環境の保全に寄与する態度を養うように工夫されている。 <p>美術1 p.10-13 / p.14-17 / p.18-19 / p.20-21 / p.22-25 / p.26-33 / p.34-35 / p.36-39 / p.40-43 / p.44-47 / p.48-51 / p.52-53</p> <p>美術2・3 p.10-13 / p.14-17 / p.22-25 / p.26-31 / p.42-45 / p.46-47 / p.48-51 / p.52-55 / p.64-67 / p.68-71 / p.72-75 / p.76-79 / p.82-85 / p.86-89 / p.90-93 / p.112-115 / p.116-117 / p.118-119 / p.120-123 / p.124-127</p>
<p>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことに配慮されているか。(第五号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本及び諸外国の優れた美術や美術文化を多数取り上げることで、日本の文化のよさや美しさを学び、諸外国の美術文化に対する興味を育てることができるように配慮されている。 伝統的な美術文化と現代の美術文化の関連を考えたり、伝統的な美術文化を継承することの大切さを学んだりすることができる構成になっている。 諸外国の作家作品や生徒作品を取り上げ、それぞれのよさや美しさ、違いや共通点を学ぶ中で、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように工夫されている。 <p>美術1 p.2-5 / p.10-13 / p.14-17 / p.18-19 / p.20-21 / p.22-25 / p.26-33 / p.36-39 / p.40-43 / p.44-47 / p.48-51 / p.52-53 / p.60-61 / p.62-63</p> <p>美術2・3 p.2-5 / p.8-9 / p.10-13 / p.22-25 / p.26-31 / p.32-33 / p.34-37 / p.38-41 / p.42-45 / p.46-47 / p.48-51 / p.52-55 / p.56-59 / p.86-89 / p.90-93 / p.98-103 / p.105 / p.112-115 / p.116-117 / p.118-119 / p.120-123 / p.124-127</p>

検討の観点	内容の特色と具体的なページの例
学校教育法との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育法「第二章 義務教育 第二十一条」の内、「九 生活を明るく豊かにする音楽、美術、文芸その他の芸術について基礎的な理解と技能を養うこと。」の目標達成のために、美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成できる学習の構成となっている。さらに、生徒が生涯にわたって美術文化と関わるができるよう、現代社会における美術や美術文化も取り上げられている。 ・学校教育法「第三十条 第2項 生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」の主旨をもとに、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の育成ができるように構成され、この「三つの柱」によって題材を構造化し、整理されている。 ・学校教育法「第三十四条」の教科用図書に関する規定に従い、特別支援教育やインクルーシブな社会の実現へ向けた教育、カラーユニバーサルデザインなどに対応するとともに、カリキュラム・マネジメントに配慮したウェブサイトによる多様な映像情報などを工夫して提示しており、SDGsなどの今日的な教育課題にも対応できる題材が多く掲載されている。 <p>美術1 全般 美術2・3 全般</p>

2 学習指導要領との関連

検討の観点	内容の特色と具体的なページの例
教科の目標を達成する観点	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領に示された「造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力」の育成に基づき、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に応じた各題材の学習目標がわかりやすく具体的に設定されている。また、生活や社会の中の優れた美術や美術文化を幅広く取り上げ、生徒自らが主体的に学習に取り組むことができるような学習の方法を中心に構成されている。 <p>美術1 全般 美術2・3 全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見方・考え方 美術科の特質である対象を捉える視点や考え方を学ぶことを目的として、よさや美しさなどを感じ取る感性や想像力を働かせて、自分としての意味や価値をつくり出すことができるように導く学習のポイントが示されている。 <p>美術1 全般 美術2・3 全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通事項 表現及び鑑賞の学習に必要な共通の知識として、形や色彩、材料、光などの性質やそれらの効果や造形的な特徴が題材ごとにわかりやすく整理して提示されている。また、鑑賞の題材では全体のイメージや作風で捉えることができるように工夫して示されている。 <p>美術1 全般 美術2・3 全般</p>
社会に開かれた教育課程の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を育むという「社会に開かれた教育課程」の理念のもと構成されており、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」がわかりやすく提示されている。 <p>美術1 全般 美術2・3 全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメント 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、他教科との関連を意識した題材が設定されており、教科等横断的な視点で学習を深められるようカリキュラム・マネジメントに配慮した構成になっている。 <p>美術1 全般 美術2・3 全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容の配列や学年の順序性 「第1学年」では全指導事項の定着を図り、「第2学年及び第3学年」では2年間を見通して学年間の関連を図るように構成され、第1学年用と第2・3学年用の2分冊で構成されている。また、内容を「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」及び各題材の学習の参考となる「学びの資料」に区分して示されている。 <p>美術1 全般 美術2・3 全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科 道徳との関連 道徳科との関連を考慮し、各学習題材における多様な表現や鑑賞の活動を通して、豊かな心や創造性を育てることができるよう工夫されている。 <p>美術1 p.10-13 / p.14-17 / p.22-25 / p.26-33 / p.48-51 / p.52-53 / p.58-59 美術2・3 p.8-9 / p.14-17 / p.18-21 / p.32-33 / p.46-47 / p.48-51 / p.52-55 / p.60-63 / p.64-67 / p.68-71 / p.80-81 / p.82-85 / p.90-93 / p.110-111 / p.116-117 / p.120-123 / p.124-127</p>

→ 内容解説資料
p.23・24 参照

検討の観点	内容の特色と具体的なページの例
<p>知識及び技能を育成する観点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 各題材の「学習の目標」に「知識や技能に関する目標」が明示されている。 題材の中で、その活動が「知識・技能」に関する学習であることを明らかにするマークが示されている。 各題材の学習に必要な知識や技能が、図版や「美術の用語」でわかりやすく提示されている。 各巻末の「学びの資料」に題材横断的な知識や技能が系統的に整理して示され、効率よく多様な題材の学習に対応できるように構成されている。 <p>美術1 全題材 / p.54-71</p> <p>美術2・3 全題材 / p.94-123</p>
<p>思考力、判断力、表現力等を育成する観点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 各題材の「学習の目標」に「思考力・判断力・表現力に関する目標」が明示されている。 題材の中で、その活動が「発想・構想」及び「鑑賞」に関する学習であることを明らかにするマークが示されている。 各題材の学習に必要な「発想や構想に関する資質・能力」及び「鑑賞に関する資質・能力」を育むための学習方法がわかりやすく示されている。また、各巻末の「学びの資料」に「発想・構想」や「鑑賞」の参考となる内容が提示されている。 掲載作品とあわせて、「作者のことば」やアイデアスケッチなどを掲載し、作品がどのような発想・構想のもとに生まれたのかなどについて、生徒が興味・関心をもって学ぶことができるように配慮されている。 <p>美術1 全題材 / p.58-59 / p.60-61 / p.62-63</p> <p>美術2・3 全題材 / p.94-95 / p.98-103 / p.104 / p.105</p>
<p>学びに向かう力、人間性等を育成する観点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 各題材の「学習の目標」に「学びに向かう力に関する目標」が明示されている。 各巻頭には美術を学ぶ意味や態度について考えるページを設定し、巻末には各学年と中学校美術科の学習をふり返り、自らの人間としての成長を確認することができる構成になっている。 各学習領域の最初には扉のページが設けられ、それぞれの学習に向かう姿勢を考えることができるように工夫されている。 <p>美術1 全題材 / p.2-5 / p.8-9 / p.34-35 / p.54-55 / p.71</p> <p>美術2・3 全題材 / p.2-5 / p.8-9 / p.120-123 / p.124-127</p>
<p>生徒の主体的・対話的で深い学びを実現する観点</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学び 主体的に学ぶ意識をもって各題材の学習に取り組むことができるよう、わかりやすい解説や学習方法、多彩な資料などが掲載されている。また、親しみやすい先生と生徒のキャラクターを登場させ、学習の各段階に応じた問いかけや学習のポイントを示し、主体的な学びができるように工夫されている。 <p>美術1 全般 美術2・3 全般</p> <ul style="list-style-type: none"> 対話的な学び 生徒同士が議論や検討などの対話を通して、新たな気づきとともに発想・構想を広げたり、鑑賞を深めたりすることができるような学習方法が題材に応じて提示されている。 <p>美術1 p.4-5 / p.10-11 / p.15 / p.18 / p.24 / p.42 / p.59 / p.61 / p.62-63</p> <p>美術2・3 p.26-31 / p.40-41 / p.66 / p.70 / p.88 / p.94-95 / p.108-109 / p.110-111 / p.121</p> <ul style="list-style-type: none"> 深い学び 各題材の最初に提示する主文において、「造形的な見方・考え方」を働かせ、深い学びに繋がるものとして、その学習の意味がわかりやすく提示されている。また、さまざまな作家やデザイナーなどの言葉も紹介し、「造形的な見方・考え方」を深められるように工夫されている。 <p>美術1 全題材 / p.3 / p.9 / p.23 / p.35 / p.58-59</p> <p>美術2・3 全題材 / p.24 / p.53 / p.120-121 / p.124 / p.127</p>

3 学習指導上の効果や編成・配慮事項

検討の観点	内容の特色と具体的なページの例
<p>小学校図画工作科からの接続への配慮がなされているか。</p> <p>→ 内容解説資料 p.12・13 参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> 美術1の巻頭に「図画工作から美術へ」のページを設定し、これから始まる美術の学習の全体構成を俯瞰し、見通しをもって視覚的に捉えることができるように構成されている。 「この教科書で美術を学習するみなさんへ」では、学習をサポートするキャラクターが登場し、中学校美術科の学習の目的や意義を確認したり、教科書の使い方についてわかりやすく解説したりすることで、生徒が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 <p>美術1 p.2-5 / p.6-7</p>

検討の観点	内容の特色と具体的なページの例
<p>キャリア教育への配慮がなされているか。</p> <p>→ 内容解説資料 p.25 参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美術1の「発想・構想のヒント」では、世界的に活躍するデザイナーである五十嵐久枝氏からデザイナーという仕事やアイデアの生み出し方などについて2ページにわたって語られており、生徒が中学校生活をふまえて将来に向けて思いを馳せることができる内容となっている。 ・美術2・3では、美術の学習で学んだ力を生かして社会で活躍する3名の方を紹介する「美術と私と社会」のページを設け、美術の力を生かして社会とどのように関わるのかについてや、美術を通して自分たちのおかれている社会について考えることができる内容が提示されている。 ・美術2・3の巻末に「美術と共に生きていく - 中学校を卒業する君へ -」を掲載し、中学校3年間の美術の学習をふり返りながら、美術や美術文化がなぜ人や社会に必要なのかを考えられるように構成されている。 <p>美術1 p.58-59 美術2・3 p.120-123 / p.124-127</p>
<p>言語活動が充実するよう工夫がなされているか。</p> <p></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が協働して学習する題材を多く設定し、言語によるコミュニケーションの重要性を示すとともに、自らの考えや思いから発想した主題などを対話によって深める学習方法などが提示されている。 ・鑑賞の題材でさまざまな問いを設定し、自分の感性を働かせて、言語として答えるように工夫して構成されている。 ・生徒作品とあわせて「作者のことば」を数多く掲載し、言語で自らの造形表現や考えを表すことの重要性が理解できるように配慮されている。 <p>美術1 全題材 / p.4・5 / p.10・11 / p.15 / p.18 / p.24 / p.42 / p.59 / p.61 / p.62・63 美術2・3 全題材 / p.26-31 / p.40・41 / p.66 / p.70 / p.88 / p.94-95 / p.108-109 / p.110-111 / p.121</p>
<p>SDGsへの配慮がなされているか。</p> <p></p> <p>→ 内容解説資料 p.22 参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関連する題材や作家作品、生徒作品などが多彩に取り上げられている。 ・題材紙面に適宜設けられたコラムでは、マークとともに、題材内容と関わる造形的な取り組みや作品が紹介され、SDGsを美術の学習と具体的に関連づけて学べるように配慮されている。また、海外の生徒作品もマークをつけて紹介されている。 <p>美術1 p.28 / p.35 / p.39 / p.56 / p.62-63 美術2・3 p.22 / p.46・47 / p.67 / p.69 / p.71 / p.72・73 / p.75 / p.80・81 / p.90-93 / p.94-95 / p.110-111 / p.116 / p.120-123 / p.124-127</p> <p>美術1 p.21 / p.25 / p.41 / p.47 / p.50 / p.53 美術2・3 p.13 / p.17 / p.21 / p.37 / p.51 / p.63 / p.67 / p.75 / p.79 / p.85 / p.89 / p.93</p> <p>・美術2・3では、「持続可能な未来へ」と題するSDGsの総括的な資料ページが設けられ、「人権教育への配慮」や「国際理解教育への配慮」、「環境教育への配慮」、「平和教育への配慮」などを中心にして、次の目標が取り上げられている。</p> <p>       </p> <p>美術2・3 p.112-115</p>
<p>プログラミング教育への配慮がなされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想やプログラミング教育を念頭に、映像メディアの活用によって表現の幅を広げるとともに、発想や構想段階での効果的な学習など、ICTの特徴を生かした積極的な活用を図るよう工夫されている。 ・ICT機器の活用 コンピュータ（タブレット端末）やデジタルカメラを中心にして、ICT機器の活用場面を示す図版が多く掲載されているとともに、ICT機器の活用に必要な知識が参考資料として掲載されている。また、鑑賞の学習を深めることを目的として、最新のデジタル技術によって作成された図版も提示されている。 <p>美術1 p.5 / p.9 / p.14 / p.24 / p.37 / p.66-67 美術2・3 p.12 / p.22 / p.41 / p.54 / p.56-57 / p.66 / p.70 / p.74-75 / p.86 / p.108-109</p> <p>・映像メディアの特徴を生かした題材設定 ICT機器の活用による表現の広がりを目指して、映像メディアの特徴を生かした表現や鑑賞の学習に取り組む題材が設定されている。</p> <p>美術1 p.36-39 美術2・3 p.38-41 / p.68-71 / p.72-75</p>

検討の観点	内容の特色と具体的なページの例
<p>QRコードの掲載による学習に効果的なウェブコンテンツの提供がなされているか。</p>  <p>→ 内容解説資料 p.20・21 参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各題材にはQRコードが掲載され、インターネットを通して、さまざまなコンテンツを利用することができるようになっている。教科書に掲載された作品以外の参考作品例を見ることができたり、「発想・構想」や「鑑賞」「ふり返り」などに使えるワークシートを利用できるようになっていたりなど、授業と連動して活用できるように配慮されている。また、授業の導入では、動画の「はじめに」を視聴することで、題材の内容を確認し、生徒が興味・関心をもって学習活動に取り組めるように工夫されている。立体的な作品には、🔄マークが付されているものがあり、360度回転させて見ることができ、生徒の立体感覚を養う工夫がされている。 <p>美術1 p.7 / p.10 / p.14 / p.18 / p.20 / p.22 / p.26 / p.36 / p.40 / p.44 / p.48 / p.52 / p.56 / p.58 / p.60 / p.68</p> <p>美術2・3 p.7 / p.10 / p.14 / p.18 / p.22 / p.26 / p.32 / p.34 / p.38 / p.42 / p.46 / p.48 / p.52 / p.56 / p.60 / p.64 / p.68 / p.72 / p.76 / p.80 / p.82 / p.86 / p.90 / p.106 / p.120</p>
<p>知的財産権や肖像権への配慮がなされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産権や肖像権、情報モラルが文化・社会の発展を維持するうえで、重要な役割を担っていることを理解できるように、「学びの資料」にてわかりやすく整理し、示されている。 <p>美術1 p.57 美術2・3 p.109</p>
<p>教科書内のキャラクターやマークについての工夫がなされているか。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 学習をサポートする親しみやすい先生と生徒のキャラクターを登場させている。各学習段階におけるアドバイスや、深い学びへと導く発問、発想や構想を広げる発言などが的確な短文の吹き出しで提示されている。 教科書の効果的な学習を図るために各種のマークを用いて、系統的な学習方法がわかりやすく示されている。また、教科書の使用方法やマークの意味などは、各巻頭に整理して示されている。 <p>美術1 全般 / p.6・7 美術2・3 全般 / p.6・7</p>
<p>安全・防災教育への配慮がなされているか。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の様子を示したすべての図版において、用具の使い方や活動場所などについて安全への配慮がなされている。 学習において特に安全指導に留意すべきことは⚠️マークとともに具体的なポイントが掲載されている。 <p>美術1 全般 / p.69 / p.70 美術2・3 全般 / p.84 / p.87 / p.95 / p.109</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災教育への配慮 美術科の学習を通じた防災の意識の涵養として、東日本大震災をきっかけにして描かれた作品が参考資料として掲載されている。 <p>美術2・3 p.67 / p.121-123</p>
<p>伝統文化や地域性への配慮がなされているか。</p> <p>→ 内容解説資料 p.26・27 参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> 表現の学習における参考として、伝統的な美術や地域の工芸などを取り上げるとともに、美術や美術文化の鑑賞を通して、日本の伝統的な美術のよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術文化にも親しむことができるよう、多様な美術文化が鑑賞の対象として掲載されている。 伝統文化 伝統的な美術文化のよさや美しさを感じ取ることができるような優れた図版とともに、伝統を学び伝えることの大切さについて考えることのできる題材が設定されている。 <p>美術1 p.26-33 / p.44-45 / p.48-51 / p.52-53</p> <p>美術2・3 p.8-9 / p.22-25 / p.32-33 / p.34-37 / p.38-39 / p.56-59 / p.88-89 / p.90-93 / p.98-103 / p.105 / p.118-119</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域性への配慮 アイヌや沖縄の美術文化をはじめとして、地域の特色ある美術や美術文化を取り上げ、表現や鑑賞の学習に生かすとともに、日本や諸外国の地域性や特色を感じ取り、郷土愛を育むことができるように配慮されている。 <p>美術1 全般 / p.39 / p.40-43 / p.44-45 / p.48-51</p> <p>美術2・3 全般 / p.8-9 / p.56-59 / p.76-79 / p.81 / p.88-89 / p.90-93 / p.110-111 / p.112-115 / p.116-117</p>
<p>現代的な話題や課題についての配慮がなされているか。</p> <p>→ 内容解説資料 p.16・17 参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現代において注目されている新たな表現活動や造形活動を展開する作家やデザイナーを取り上げるとともに、中学生が身近に感じる美術や美術文化を取り上げ、これからの社会と美術、そして自分自身との関わりについて考えられるように構成されている。 <p>美術1 p.8-9 / p.13 / p.17 / p.34-35 / p.39 / p.58-59</p> <p>美術2・3 p.2-5 / p.24 / p.40-41 / p.60-61 / p.68-69 / p.72 / p.85 / p.120-123 / p.124-127</p>

検討の観点	内容の特色と具体的なページの例
<p>特別支援教育・インクルーシブ教育への配慮がなされているか。</p> <p></p> <p>→ 内容解説資料 p.23 参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒作品を掲載するとともに「作者のことば」も提示し、さまざまな個性や特性があることを学べるように工夫されている。また、福祉と美術の関わりを学ぶページが設定されており、インクルーシブ教育に対応できるように配慮されている。 ※特別支援教育に関する観点から、明星大学の明官茂先生に校閲していただきました。 ※インクルージョン&ダイバーシティ教育に関する観点から、東京家政大学の半澤嘉博先生、元堺市立福泉中学校校長の富田清高先生に校閲していただきました。 <p>美術1 全般 美術2・3 全般 / p.80・81</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインフォント・総ルビ・図版番号・意味のまとまりごとの改行など 題材名と本文には誰にでも読みやすいユニバーサルデザインフォントが採用されており、中学校以降で習う漢字や美術の専門用語については、初出だけでなく、すべてにおいてふりがなをつけた総ルビになっている。各作品図版に図版番号を付しており、日本人の生徒だけでなく外国籍の生徒にとってもわかりやすく使いやすいように配慮されている。また、文章の表記は、単語や文節の途中で改行されないよう、意味のまとまりごとに改行位置が工夫されており、すべての生徒にとって文章の意味が捉えやすくなるように配慮されている。図版を重ねて掲載する場合は、間に線を入れて図版を区別しやすいように配慮されている。 ※デジタル教科書では、画面の拡大・縮小、音声読み上げ、すべての漢字にふりがなをつけた総ルビ表示、本文のリフロー表示、白黒反転表示といった特別支援機能に対応し、アクセシビリティにも配慮しています。 ※教科書の発行とあわせて、図版と文字を拡大して構成した拡大教科書を制作・発行いたします。 <p>美術1 全般 美術2・3 全般</p> <ul style="list-style-type: none"> カラーユニバーサルデザイン カラーユニバーサルデザインの観点から、専門家（一般財団法人日本色彩研究所）の校閲を得て、色覚特性の有無に関わらずすべての生徒に対して、教科書の内容が正しく伝わるように、識別しやすい配色や形状、イラストの配色や写真の配置などが工夫されており、支障なく学習できるように配慮されている。 <p>美術1 全般 美術2・3 全般</p>

4 体裁や造本

検討の観点	内容の特色と具体的なページの例
<p>発達段階に応じた内容の配列や学年の順序性への配慮がなされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 義務教育段階の普通教育として、各個人の能力を伸ばすことができるよう生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組める題材の開発に取り組み、発達段階に応じて系統的に配列されている。例えば、中学生の発達の状況を考慮し、A4判の横幅を広げたA4ワイド判の大判教科書となっており、中学生にとって魅力的な大型の図版を多数用いて構成されている。また、教科書のデザイン自体が重要な学習の資料となることから、中学生の興味を引くようにデザインが工夫されている。 小学校図画工作科と中学校美術科の学習の関連に配慮するとともに、中学校美術科の学習の目的や意義を確認する中で、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。例えば、第1学年では小学校図画工作科での学習との関連を考えた題材が提示されている。巻頭には「図画工作から美術へ」を配置し、学習の質的变化に順応できるように配慮されている。 <p>美術1 全般 / p.2-5 / p.6-7 美術2・3 全般</p>
<p>文章表現は適切であるか。 表現の工夫はなされているか。</p> <p></p> <p></p>	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の発達段階を考慮して、簡潔で的確な文章表現に留意し、学習の目的や考え方などが読み取りやすいように工夫されている。題材名は内容が豊かにイメージされるように工夫されており、題材の最初に提示する主文は生徒の言語感覚を大切に、生徒の心に語りかけ、題材内容をイメージさせて意欲的に課題をつかみ取れるように工夫されている。また、作品の解説や「作者のことば」などは、作品制作や活動にあたっての発想・構想や材料・技法についての工夫を取り上げており、教科書に掲載した意図が伝わるように配慮されている。 美術科の学習に必要な「美術の用語」については  マークで示し、理解を深められるように配慮されている。 文字の分量への配慮 題材の最初に提示する主文は三文程度にまとめられ、一読してその意味が読み取れる提示の文章量になっている。また、各解説や「作者のことば」についても、一文程度にまとめるように配慮され、全体として、形や色彩を中心とする美術科の学習にとって適切な文章量になるように工夫されている。 <p>美術1 全般 美術2・3 全般</p>
<p>図版は学習の内容に関連して適切に用いられているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が美術や作品に親しみを感じてイメージを膨らませたり、技能や工夫を読み取ったりできるように、写真やイラストが厳選されている。 <p>美術1 全般 美術2・3 全般</p>

検討の観点	内容の特色と具体的なページの例
制作過程や図版は生徒が理解しやすいものであるか。	<ul style="list-style-type: none"> 制作の手順、材料・用具の使い方、技法の手立てなどは生徒が理解しやすい視点から撮影し、鮮明で、かつ意図が明確なものが掲載されている。 美術1 全般 美術2・3 全般
レイアウトに工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって最も身近な美術書としての位置づけのもと、文章・図解・活動写真・作品図版などがレイアウトされている。作品図版をできるだけ大きく掲載することで、美しさや楽しさが伝わるように工夫されている。 美術1 全般 美術2・3 全般
大きさ・判型に工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> A4判の横幅を広げたA4ワイド判の紙面に魅力的な大型の図版を多数用いて構成されている。大きな図版を豊富に掲載することで、小さい図版では気づかないような細かい表現まで見て取ることができ、生徒の鑑賞の視点が広がったり、自身の表現に生かしたりすることができるように工夫されている。 美術1 全般 美術2・3 全般
印刷は鮮明で見やすいものであるか。	<ul style="list-style-type: none"> 用紙は、見やすさ、裏写りの少なさ、印刷適性の観点から、数多くの用紙を使って試験されており、特に印刷インキのギラツキを抑えながらも発色の鮮やかな用紙が採用されている。 印刷は、最新の印刷技術を駆使し、かつ入念な色校正をすることで、作品のもつ微妙なニュアンスや質感などが忠実に再現されている。 美術1 全般 美術2・3 全般
健康や安全(アレルギー)に配慮した造本がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 印刷インキは植物性インキを使用し、人体への影響が少なく、化学物質に敏感な生徒の安全面に対しても配慮されている。 美術1 全般 美術2・3 全般
環境に配慮した造本がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 掲載図版の鮮明度を保ちつつ、資源保護のために表紙、本文ともすべて環境に配慮した再生紙が使用されている。 美術1 全般 美術2・3 全般
製本は堅牢で使いやすいものであるか。	<ul style="list-style-type: none"> 開いたときの使いやすさと堅牢さを考慮した糊づけをすることで、長期間の使用に耐え得る製本がなされている。 美術1 全般 美術2・3 全般
表紙は魅力的なものであるか。 → 内容解説資料 p.4・5 参照	<ul style="list-style-type: none"> 思わず触りたくなるような特殊加工を施すことで、教科書を手に取った生徒たちが美術の学習により興味・関心をもつことができる魅力的な表紙になっている。美術作品を見て楽しむことはもちろん、立体的に浮き出た加工部分を指先で触りながら作品の質感を想像することができるように工夫されている。 美術1 表紙 美術2・3 表紙
造本上に工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 裏表紙に、生徒の学年・組・氏名を記入できる部分が設けられている。また、適宜折り込み仕様の大型鑑賞ページが設けられている。 美術1 裏表紙 / p.2-5 / p.26-31 / p.64-67 / p.68-71 美術2・3 裏表紙 / p.2-5 / p.26-31 / p.98-103 / p.120-123 / p.124-127
軽量化への取り組みがなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 印刷適性の観点とともに、数多くの用紙を使って試験されており、印刷が鮮明でありながらも軽量化な用紙が採用されている。 美術1 全般 美術2・3 全般



開隆堂出版株式会社

本社 / 〒113-8608 東京都文京区向丘 1-13-1 TEL: 03-5684-6111

北海道支社 / 〒060-0042 札幌市中央区大通西11丁目4番地2152 山京ビル7階 TEL: 011-231-0403
 東北支社 / 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-10-7 サンライン第66ビル5階 TEL: 022-742-1213
 名古屋支社 / 〒461-0004 名古屋市東区葵1丁目15番18号 オフィスサンゴヤ9階 TEL: 052-908-5190
 大阪支社 / 〒550-0013 大阪市西区新町2-10-16 TEL: 06-6531-5782
 九州支社 / 〒810-0075 福岡市中央区港2丁目1番5号 FYCビル3階 TEL: 092-733-0174

表紙・本文デザイン: パシフィック・ウイステリア

QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。